

今月の聖句

わたしはぶどうの木。あなたがたはその枝である。

ヨハネによる福音書 15 : 5

聖書に登場する植物の画像と解説の書籍やウェブサイト、いつ開いてもどれかにホオと、そうだったと、新鮮さを感じるのは種類が豊富で全部は憶えられないからです。果物ならブドウをはじめ、イチジク、ザクロ、ナツメヤシ、一応メロンも。楽園喪失で有名なエデンのアダムとエヴァはリンゴをかじったと伝えられていますが、恐らくシリア、パレスチナ方面でフツーに生えていたから、いつの間にかリンゴになったのだと習いました。イタリア半島でソレはイチジクだとか。

学生の頃聖書の先生からの嚴重注意はコレ、<シリアやエジプト方面に旅行中、食堂でジュースはそのままにして、とお願いしなくてはいけない。日本人は氷の水に当たってお腹を壊す>。井戸もよく描かれるのにそれは驚異でした。汗をかいてもすぐ蒸発してしまうので、水分が失われたのを忘れないうちに補給しないと危ない乾燥地帯です。昔旅番組で見た中東のフルーツレザーとも相まって、もしエルサレムへ旅する機会があったら甘酸っぱいジュースを飲もうと無駄に決意して早幾年月。イヤしかし。イエス様が食べようとなさったのはイチジク。例え話で実をつけない不出来な木はイチジク。ブドウは…？ブドウ園、ブドウの木とイエス様はおっしゃいますが、実が食卓に上がる場面には憶えがありません。ワインの原料だから、糖度は高いけどそのまま食べたら勿体ないのかしら？ユダヤの律法では、貧しい人は他所のブドウ畑で摘んで食べるのは構わない、と定められています。(持ち帰りはダメです。) フルーツとしても甘いけど、渋みと調和したワインへと醸造されたらもっと美味しいから。小粒でもいいのです。ブドウの幹に連なる枝を通して房が提がります。それで今更ああそーか、と。私達はブドウの実ではない。枝だった。細く幹につながり、水や栄養を待ちます。枝がヨイ実を結んだかどうか。枝から摘まんで口に入れる人と、醸造所とは別の判定が下るでしょう。

幹に連なっていれば実は結ばれる…というモノでもなく、先から枯れていく枝だってあります。提がった実がどうであれ。デザート用か醸造用か。ブドウはブドウだと言うだけで大切にされるモノであり神様への献げ物です。そして忘れないでください。ブドウ甘いか酸っぱいか？味わいを判定なさるのは人間ではなくイエス様なんです。自分は何であるか、解らない！混乱と悲しみの時期が来たら、お祈りをして神様に訊いてください。自分は枝ですか？つながっていますか？<そーだよ>ってイエス様はお答えになります。

チャプレン 司祭 セシリア塚本祐子